

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：18001
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2012～2014
課題番号：24611008
研究課題名(和文) 那覇市における生活文化に着眼した都市型観光資源管理および計画に関する基礎研究

研究課題名(英文) A Study on Management of Urban Tourism from a Viewpoint of Tourist Attractions including Living Culture in Naha-shi Okinawa Prefecture

研究代表者
飯島 祥二(Iijima, Shoji)

琉球大学・その他部局等・教授

研究者番号：80258201
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：当該研究は、観光者の認知的視点であるアトラクションの分析を通して、観光目的地の魅力特性の分析を行った。研究手法は被験者の任意な視点での評価を可能とするキャプション評価法やシステムチックなインタビューから構成されている評価グリッド法という環境心理学的手法を用い、沖縄県那覇市国際通り周辺地域をケースとし実証的な調査研究を実施した。その結果、当該調査手法は、観光振興等に資する指針を得ることのできる有用な手法であることが理解された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to discuss the complex nature of tourists' evaluation and to elucidate structural perspective of tourist attractions at the market district as tourism destinations in Naha city. This study proposes the application of the caption evaluation method and repertory grid and laddering analysis in order to elicit relationships between tourists' mental states and a district's features. Results illustrate the efficacy of these methods in investigating the tourist attractions of the market district as tourism destinations and shed light on advantages in order to establish strategies for management and planning of tourism destinations.

研究分野：建築環境工学

キーワード：観光資源管理 都市型観光 環境評価

1. 研究開始当初の背景

那覇市の都市型観光に関する目的地の魅力特性の解析を中心に、島嶼の都市型観光に視点を置いて研究を進展させた。

観光研究において、購買は観光者の経験において重要な位置を占めるとされ、観光者に購買機会を提供するのみならず、地元文化を計画する機会を提供するものだと主張されている。しかし、多くの観光地がそうであるように、観光者に購買の場を提供する空間の多くは、本来観光者誘致の為に生成されたものではない。Snepenger ら (1988) は、そのような、本来観光者向けではない購買空間を shopping habitat と呼び、コアとなる客層の住民から観光者への移行、扱われる商品の生活必需品から土産品などへの移行、販売価格の高騰などをそのような空間の観光地化の指標とする、小売空間のライフサイクルモデルを提唱している。しかし、そのような異なる観光地化の段階にある購買空間の特徴がどのように認識されるのかを実証的に研究した試みは見当たらない。

上記の観光行動的側面に加え、島嶼の都市型観光に関する環境学的魅力特性を検討する必要がある。そして、その必要性は「観光まちづくり」に有益と考えられる。

2. 研究の目的

島嶼都市型観光対象の多元的構造を明らかにすることにより、地元の生活を対象とした魅力特性の実証的分析を通し、島嶼における都市域の訪問客満足度と地元への影響の双方に配慮した着地型観光形態に対応する「まちづくり」へ示唆を与えることを当該研究の目的とした。

また、島嶼における都市型観光に関する目的地の魅力特性研究は今後有用な視点を提供すると考えられる。したがって、心理物理的視点から那覇市の街路色彩環境へ着眼し、都市間の比較を通して着地型観光形態に対応する「まちづくり」へ示唆を提供した。

3. 研究の方法

写真撮影を用いた研究では、商店街内の観光地化の特性の異なる空間の特性を、どのように認識するかを明らかにするため、観光行動的調査では、沖縄県那覇市中心の商店街とその周辺地域を対象とし、県内高等学校出身の地元大学生 45 名を調査協力者としたキャプション評価法 (被験者参加型写真撮影調査) を実施した。調査協力者は、対象地域内を 1 時間自由に散策し、「観光者向けの空間」、「地元的生活空間の一部だと思われるかもしれないがそうではない空間」、「観光者にとっての魅力となる可能性がある空間」、「住民向けの空間」の 4 つのタイプのいずれかに当てはまるとと思われる空間を撮影し、特に印象的だった 10 枚の写真を選び、その場所を 4 つのタイプのいずれかだと認識した理由を自由記述するよう求められた。その後、自由記述された撮影理由中の名詞、形容詞の頻出語 (全景観カード枚数の 5% 以上の出現回数) がテキストマイニングソフトウェア (KHCoder) によって抽出された。

また、環境学的には当該調査地域の街路景観色彩を定量的に調査し、そのデータを既存データと比較をして、当該地区の地域的特性を抽出した。

3. 研究成果

自由記述された撮影理由中の名詞、形容詞の頻出語 (全景観カード枚数の 5% 以上の出現回数) がテキストマイニングソフトウェア (KHCoder) によって抽出され、その空間の特徴が、それぞれの語が表す事物が存在することと関係するのか、存在しないことと関係するのかが文脈を基に判断された。抽出語を各空間のタイプごとにまとめた結果、商品の種類、人の特徴 (観光者と住民) が観光空間、地元空間を特徴づけることが示唆された。具体的には、観光者と土産物品の存在と住民の不在は「観光者向けの空間」の特徴を表すものだと調査参加者から認識さ

れていることが分かった。また、「地元の生活空間の一部だと思われるかもしれないがそうではない空間」に関しても同様の認識が見られた。また上記2空間とも、大通りの存在が共通してその特徴として認識されていることから、両空間とも、‘front stage’ (MacCannell, 1976)の特徴を持つ空間として認識されていることが示唆された。後者については、「住居」、「家」など、住宅に関する語の存在と当該空間の特徴を関付ける認識も見られた。「観光者にとっての魅力となる可能性がある空間」と「住民向けの空間」に関しては、大通りの不在が両空間の特徴と関係づけて認識されていることから、両空間とも、‘front stage’ (MacCannell, 1976)の特徴を持つ空間として認識されていることが示唆された。ただ、前者では、観光者、住民双方の存在と土産物などの観光者向けの商業的要素の存在がその特徴として認識される一方、後者に関しては、住民の存在と観光者の不在、安価な買回り品の存在がその特徴だと認識されるという傾向の違いが見られた。本研究の結果、Snepengerら(1988)の小売空間のライフサイクルモデルが示す空間の観光地化の指標と類似した指標が見られた。また、住民の存在が「観光者向けの空間」の特徴として認識される傾向も見られ、住民の存在が、観光者空間の魅力強化においても重要であることが示唆された。

本研究の結果は、住民の視点から見た購買空間の観光地化と、潜在的な魅力指標を提示した点で、地元の生活の特徴を生かした観光振興を目指す観光マネジメントに対する指標を提示したと言える。今後は、首都圏の大学生を被験者とした実験を通して、観光者の視点からの同様の指標を抽出し、住民、観光者の双方の視点の類似点と差異を明らかにすることで、両者が納得する地元の生活の特徴を生かした観光振興の可能性に関する示

唆を得ることを目的とした研究が予定されている。

街路景観の色彩の分析は、当該地区の特性を、他府県の街路景観色彩との比較を通して明確にし、色彩以外の環境要素との関係性を、「環境要素間関係性」とし、観光目的地環境の魅力特性の分析をおこなった。

また、観光行動論的分析結果と、環境学的な観光目的地の魅力特性を記述するための環境要素の記述研究の両者を観光心理学的にモデル化するために、今後、人間環境研究を援用した研究を推進する必要性が考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

Naoi, T., Iijima, S., Soshiroda, A., & Shimizu, T. (掲載決定). Chapter 1: Local students' perception of spaces for tourists and locals in shopping district: photo-based research. In. *Advances in culture, tourism and hospitality research: (査読有) Volume 10 (Advances in Marketing Places and Spaces)*, Emerald.

飯島祥二・直井岳人 (2015): 観光目的地評価研究に対する環境工学の応用: 「環境要素間関連性」を通しての観光研究の事例, 観光研究、審査有、観光研究、26巻、2号、119~124

上原明・飯島祥二・直井岳人・伊良皆啓 (2014): 那覇国際通り周辺における観光目的地の魅力特性に関する研究: 観光目的地内の空間特性が観光活動に及ぼす影響, 第29回日本観光研究学会全国大会研究発表論文集, 査読なし、253-256.

飯島祥二・穂山憲 (2014): 那覇市国際通りの色彩環境 - 東北地方12都市の色彩環境との比較 -, 日本建築学会東北支部研究報告集計画系第77号、査読なし、43-44

飯島祥二・直井岳人・十代田朗（2013）：
那覇市国際通りの色彩環境 - 比較色彩研
究から観光学へのアプローチ -、観光総
合研究、査読有、第12号、61～65

Naoi, T., & Iijima, S. (2013): Visitors'
Evaluation of Destinations: How are place
valued as places to visit? Journal of
Tourism Sciences, 査読無、Vol. 5, pp.20-30.

[学会発表](計2件)

上原明・飯島祥二・直井岳人・小川真弘・
伊良皆啓（2014）：那覇市国際通り周辺
における観光目的地の魅力特性に関する
調査研究：観光者向けの空間と地元住民
向け空間の魅力特性に関して，総合観光
学会第26回全国学術研究大会、（山口県
下関市2014年6月21日）

Naoi, T., Soshiroda, S., Iijima, S., &
Shimizu, T (2013) Local students'
perception of spaces for tourists and locals
in a shopping district: photo-based research,
Proceedings of 5th advances in Tourism
Marketing Conference, Faro, Portugal.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

飯島祥二（琉球大学）

研究者番号：80258201

(2) 研究分担者

直井岳人（首都大学東京）

研究者番号：10341075

十代田朗（東京工業大学）

研究者番号：1260892927

波多野想（琉球大学）

研究者番号：1800199927